

国語科の授業(単元)づくりQ&A



Q1 まず何から始めればいいのか？



A1 指導事項を確認しましょう！

国語科は「言語活動を通して、指導事項を指導する」教科です。ですから、国語の授業づくりは指導事項の確認から始まるのが鉄則です。当該単元の指導事項は、教師用指導書や各学校の教育課程で簡単に確認することができます。

指導事項を確認した後は、指導事項に示された言葉の力を身に付けた具体の姿（ゴールの姿）をイメージし、その実現に適した言語活動を構想します。



Q2 言語活動はどのように設定するの？



A2 児童生徒の実態を踏まえましょう！

言語活動は、当該単元の指導事項を指導するのに適した言語活動が教科書に例示されていますし、各学校の教育課程にも示されていますので、それらを踏まえることが基本です。その上で、学級の児童生徒の実態等を踏まえて、興味関心を生かした題材の設定、他教科等や行事との関連、地域の教育資源の活用などの視点から、言語活動を工夫することも大切です。



Q3 言語活動を効果的に設定するコツは？



A3 教師が事前にやってみましょう！

教師が実際に言語活動を行ってみるにより、新たな気づきが生まれることが多くあります。例えば、必要となる時間の目処、児童生徒がつまづきそうな点、言語活動の遂行に必要な手がかりなどが挙げられます。

学級の児童生徒を具体的にイメージしながら言語活動を試してみることも大切です。児童生徒に与える手がかりの内容やレベル、発問や指示の具体、個・ペア・グループなどの学習形態、求めるB規準の具体の姿、時間配分などが、学級の実態に応じたものになり、身に付けさせたい力を付けるために適した言語活動を設定できます。



Q4 単元の指導計画を立てるポイントは？



A4 3次構成を基本に考えましょう！

課題意識の醸成と課題解決の見通し、単元を通じた言語活動、身に付けた言葉の力の自覚、の3次構成を基本として考えてみましょう。

また、基本的には、当該単元の領域の指導事項に沿って学習を展開（例「書くこと」の場合：題材の設定・情報の収集・内容の検討→構成の検討→考えの形成・記述→推敲→共有）しますが、当該単元の重点となっている指導事項を指導する活動を充実させることが大切です。



Q5 単元の評価はどうしたらいい？



A5 指導事項と正対させましょう！

基本的には、指導事項をそのまま単元の評価規準とし、正対させるようにします。また、当該単元の指導事項を身に付けることができるよう指導するために言語活動を設定していることから、例えば次の例のように、言語活動の遂行状況を見取って評価することが基本です。

- 小学校4年生において、礼状を書く活動を通して、「文章の構成」について考える力や、書いた後に読み直して「文や文章を整える」力が育まれたか評価する。
- 中学校2年生において、プレゼンテーションする活動を通して、「根拠の適切さ」や「論理の展開」などについて効果的に構成する力が育まれたか評価する。

さらに、次のように、単元を通じた言語活動を遂行した後に、その力を活用する場面を設定し、評価することも考えられます。

- 上記の礼状を書く活動において、一度書き方を学習した後で、実際に送る礼状を書く活動を設定し、「文章の構成」「文や文章を整える」力を評価する。

課題の見られる評価の仕方としては、例えば次のような場面が見られます。

- ▼教材文をもとにして「作者の表現の工夫やその効果について考える力」を育む言語活動を行った後、教材文の「登場人物の相互関係や心情」を問う市販のテストなどを用いて、その点数で評価するなど、単元の学習や指導事項と評価に用いる課題が整合していない。

- ▼書写において、毛筆で見栄えのよい1枚を提出させ作品として掲示するなど、当該単元の指導事項（文字の大きさや配列、穂先の動きと点画のつながりなど）の評価が軽視され、作品主義になっている。

国語科の授業づくりのステップ（単元編）

Step1

目標とゴールの明確化（指導事項の明確化）

各学校の教育課程からその単元で身に付けさせたい指導事項を明確にし、単元の目標を設定しましょう。複数の指導事項が示されている場合は、重点を置く指導事項を決め、身に付けさせたい力のうち、特に比重を重く置く力を整理することが大切です。

あわせて、その目標を達成した児童生徒のゴールの姿を明確にしましょう。単元の終末における「目指す振り返りの姿」を具体的にイメージすることで、身に付けさせたい力やその力を身に付けさせるために必要となる手立てが明らかになります。

指導事項

単元の目標

単元のゴール

Step2

単元を通して行う言語活動の設定

単元を通して、Step1で明確にした目標とする力を身に付け、目指すゴールの姿へ到達させるための言語活動を設定します。言語活動を設定するには右の4つのポイントに留意することが大切です。

言語活動が決まったら、教師自身がその言語活動を実際に行ってみることが重要です。実際に行うことで、児童生徒がつかずきそうな点を知ることができ、そのための手立てを工夫することにつながります。単元の導入で学習モデルとして児童生徒に提示することも見通しをもたせるために有効な手立てとなります。

身に付けさせたい力が身に付く言語活動

「やってみたい」、「面白そうだ」を喚起する言語活動

児童生徒の実態を踏まえた言語活動

汎用性があり、生活場面で活用可能な言語活動

Step3

単元の指導計画の作成

第1次では、児童生徒の興味・関心を高める工夫をしたり、学習モデルを提示するなどして単元の見通しや学習への必要感をもたせたりすることが大切です。

第2次では、単元を通して行う言語活動と結び付いた学習活動を通して、単元の目標となる言葉の力を身に付けさせることが必要です。言語活動自体が目的化しないよう、各時間において、どの指導事項を指導するのかを明確にすることも大切です。

第3次では、単元を通じた学びの成果や表現活動を交流したり、改めて見直したりすることで、自分にどんな力が身に付いたのか、何ができるようになったのかを自覚できるようにすることが大切です。また、身に付けた力を活用できる場面をイメージさせることにより、今後の学習や生活場面に生かそうとする態度を育むことも大切です。

第1次

- 単元の見通し
- 必要感・意欲化

第2次

- 単元を通じた言語活動との関連
- 指導事項の明確化

第3次

- 身に付けた力の自覚
- 活用しようとする態度

国語科の授業づくりのステップ（本時編）

導入

本時の見通しをもたせる

単元の目標を達成するための本時の目標を設定し、目標の達成につながる学習課題を設定します。本時の目標を設定する際は、どの指導事項に基づくかを明確にすることが必要です。また、全ての児童生徒が達成できるよう、1時間の目標は1つの指導事項に絞ることが大切です。

児童生徒に学習課題を提示する際には、単元の学習計画表等を使って、単元全体の課題解決のために本時がどのような意味をもつかについて意識させることも大切です。

課題の設定に当たっては、「〇〇しよう」という活動のみを示すのではなく、学習活動の方法と目的に加え、目標の達成に向けた手立てを明確にすることにより、「できそうだ」「やってみたい」という意欲が高まり、主体的な学びの実現につながります。

モデルの提示

グッドモデルやバッドモデル、エラーモデルなどを示すことにより、学習活動の方法や本時の課題解決に向けた視点を明確にし、見通しをもたせることができます。

条件の明示

課題設定の際、例えば次のような条件を明らかにすることにより、課題解決の視点が明確になります。

- 考えとその根拠を明確にする
- 字数を制限する
- 資料から引用する
- 複数の叙述を根拠とする

5つの言語意識

見通しをもたせる際、次のような言語意識をもたせることも大切です。

- ①目的意識
- ②相手意識
- ③方法意識
- ④場面・条件意識
- ⑤評価意識

展開

課題を解決させる

展開場面では、課題の解決に向けて、個人で思考する場面とともに、対話を通して考えを広げ深めることが大切です。

また、対話の後、自分が一度、言葉で表現したり理解したりした内容を改めて捉え直すことにより、考えを深めることにつながります。

学習形態

ペア、グループ、全体などねらいに合った学習形態を取り入れることが大切です。その際、方法や目的、条件などの視点を明らかにしてから活動させましょう。

発問・指示

児童生徒の思考の状況に応じて、新たな視点を示したり、課題解決に向けて方向付けたりすることが大切です。

終末

身に付けた力を自覚させる

終末場面においては、課題に対する最終的な自分の考えをまとめたり、できるようになったことを表現したりする場面を設定することが大切です。これらは、児童生徒一人一人が異なるものであるため、全体でひとつの「まとめ」に収束させることに固執する必要はありません。そのようなまとめの後、1時間の学びを通して、本時の目標と正対して、目標を達成することができたか、何ができるようになったかを自覚できるよう振り返らせましょう。そのためには、導入場面で児童生徒に本時のゴールの姿を明確にしておくことや、振り返りを行う際に教師が観点を明示することが大切です。また、児童生徒が授業の冒頭と終末における自分の変容を視覚的に捉えられるよう工夫することも大切です。

国語科の授業づくり 例

P 3、4の「国語科の授業づくりのステップ」に合わせて、授業づくりを行いましょう。

国語科の授業づくりのポイント

導入

活動や方法のみにとどまらず、「できそうだ」「やってみたい」という意欲を高められるよう、目的意識や必要感をもたせる工夫をしましょう。

展開

言語活動を通して、目指すゴールの姿へ到達できるよう、協働的に学ぶ場面を設定するなどの工夫をしましょう。

終末

目標に正対し、身に付けた力を実感したり、その力を今後にかそうとする意欲をもったりできるよう、観点を明確に示しましょう。

授業例

小学校第6学年「海の命」

単元を通して身に付けさせたい力

○登場人物の生き方について、考えを深めながら読む力
【目指すゴールの姿（B規準）】登場人物の考え方・生き方と、それに対する自分の考えを叙述を根拠にして表現している。

Step1

指導事項を基にして焦点化しましょう。

Step2

身に付けさせたい力を付けるのに最適な言語活動を設定しましょう。

Step3

全ての児童が目指す単元のゴールの姿を実現できるよう、逆算して指導計画を作成しましょう。

単元を通して行う言語活動

第一次
1 時間

① 既習の文学教材等を想起し、登場人物の考え方・生き方に興味をもち、単元の学習の見通しをもつ。

導入

教師がモデルを示すなどして「単元を通して行う言語活動」に興味をもたせ、「やってみたい」という気持ちを高めます。また、単元で目指すゴールの姿を明らかにします。

第二次
3 時間

② 教材文を読み、構成や内容などについて描写を基に捉える。

③④ 主人公「太一」の考え方や生き方に影響を与えた事柄を他の人物との関わりに着目して読む。登場人物の生き方とそれに対する自分の考えをもつ。

展開

「読むこと」の指導事項である「構造と内容の把握」→「精査・解釈」→「考えの形成」に沿って展開し、第3次の「共有」につなげます。いずれの時間においても、個人思考の後、グループや全体での交流を通して考えを深め、終末で改めて自分の考えをまとめます。

第三次
1 時間

⑤ 考えたことをグループで話し合い、自分の考えを深める。

終末

全ての児童が単元の目標を達成できたことを自覚できるよう留意します。また、本単元の学びを今後の生活にかそうとする態度を育みます。

登場人物の考え方・生き方について、考えを伝え合う。

本時の目標

文章を読んでまとめた考えを共有し、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。(5/5時間目)【読むこと カ】

指導事項を基にして
焦点化しましょう。

⑤

指示 自分の考えの①～③に当たるところに赤鉛筆で直線を引き、①、②、③と書きましょう。①～③が引けた人は手を挙げましょう。→全員、条件を満たして解答できていますね。

指示 友達との交流を通して、考えが広がった、あるいは変わらないけど自信や根拠が深まった人は挙手しましょう。→全員、今日の目標が達成できました。

指示 太一の考え方・生き方への関わりについても書けた人はいますか。→すばらしい。

本時のゴールの姿と、到達するための手立てを説明し、「できそうだ」を生み出します。

③

指示 同じ人物について考えをまとめた人、3～5人のグループに分けました。20分間、〇〇の視点などから感想を交流します。その後、10分程度、自分の考えを改めてまとめる時間を取ります。そのときに、自分の考えが広がっていたり、同じ考えでも自信や根拠が深まったりしていれば、今日の授業の目標は達成です。

第二次のゴールとして、全ての児童が整理している内容について、教師のモデルを例示して感想を聞きます。この活動を通して、互いの考えについて、感想を述べ合うことへのイメージや必要感を持つことへ繋がります。

①

発問 先生は、与吉じいさの考え方・生き方をこのように考えました。この考えに、どのような感想をもちますか。

おくり

「海の命」の学習にどのように取り組んだか
今後、物語文を読むときに意識したいこと

- まとめ・振り返り(五分)
- ・条件を満たしているか(①～③ A)
- ・どの程度考えが深まったか

○自分の考えの再整理(十分)

○感想交流の視点

- ・共通・相違
- ・共感・非共感
- ・視点の転換

自分〇〇に着目したから……
〇〇は共感できるけど……
違う叙述では……

○グループで共有・感想交流(二十分)

- ①与吉じいさ、父、母いずれかの考え方・生き方
- ②その根拠となる叙述 「」で引用
- ③登場人物の考え方・生き方に対する自分の考え
- A太一の考え方・生き方への関わり

学習の流れ

○自分の考えの確認

【条件】

めあて

互いの意見をグループで交流して、自分の考えを深めよう。

海の命

登場人物の考え方・生き方(太一への関わり)
例 与吉じいさは海に感謝して生きた人である。
それは、「千びきに一びきでいいんだ」という言葉などから分かる。
その考え方・生き方について、私は、共感でき、自分も必要以上に動植物の生命を奪わず、自然を大切にしたいと考える。

⑥

指示 観点に沿って、これまでの学習を振り返りましょう。

終末においては、全ての児童が、本時のゴールの姿に達成したことを確認する場面を設定し、「できた」「できるようになった」と実感できるようにすることが大切です。

④

追加指示例 感想交流が早く終わったグループは、個人で動き回り、自由に交流しましょう。

追加指示例 感想交流が早く終わった人は、オクリンクプラスでいろいろな人へ感想を送りましょう。

課題解決の活動が停滞しないよう、グループ化の工夫、1人1台端末の活用、論点の整理など、様々な手立てを準備しておくことが大切です。

②

説明 皆さんの感想を聞いて、先生は自分の考えについて、〇〇など、考えを深めることができました。皆さんも、先生と同じように、友達の感想を聞いて、自分の考えを深めたいと思いませんか。

児童の「やってみたい」を引き出し、課題を与えるのではなく生まれるように工夫します。

国語科における「子どもが学びの主体となる授業づくり」

「学習の基盤となる資質・能力」と「国語科の授業改善」

学習の基盤となる資質・能力

言語能力

情報活用能力

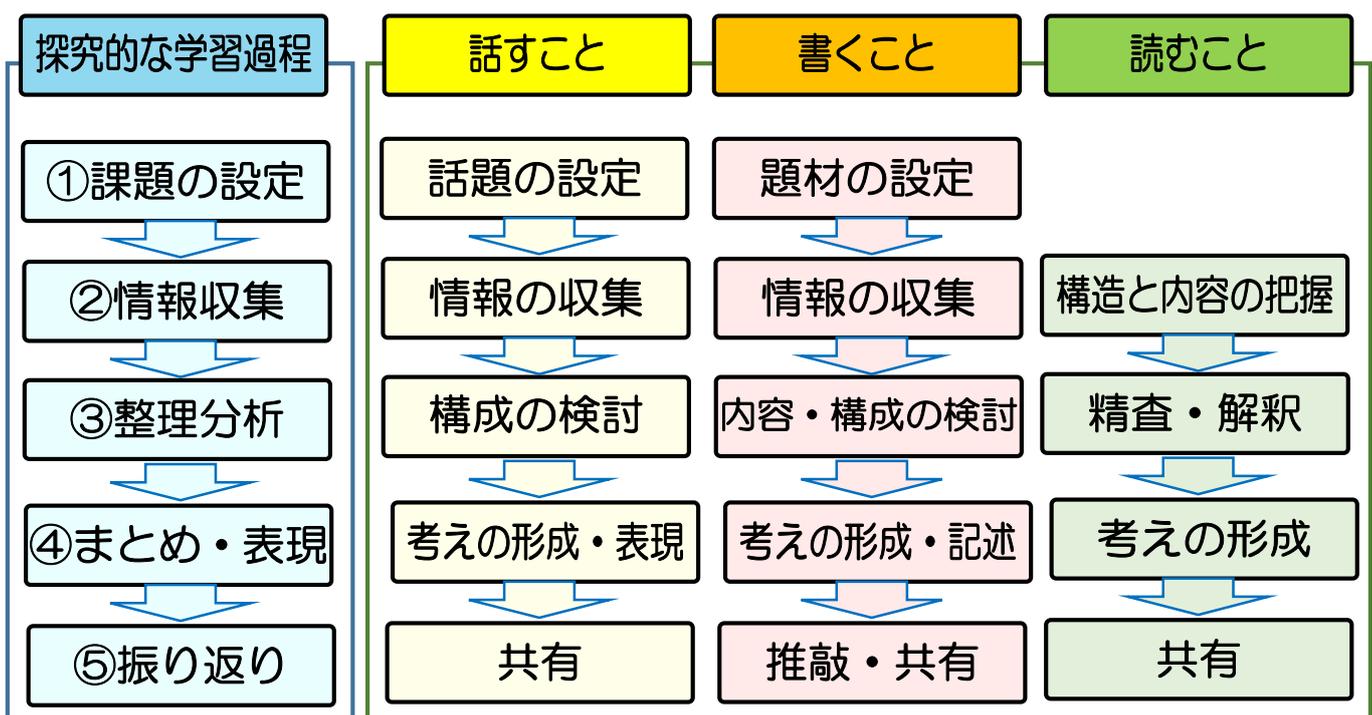
問題発見・解決能力

H29改訂の現行学習指導要領においては、これらの「学習の基盤となる資質・能力」を教育課程全体を見渡して育むことの重要性が示されています。

「言葉の力を身に付ける」ことを目的としている国語科においては、「ICTを効果的に活用」しながら、課題を見出し、解決方法を考え、実行して振り返る「探究的な学習過程」を重視して授業づくりを行うことが、とりわけ重要であると考えられます。

「探究的な学習過程」と「国語科の単元の学習過程」

子どもが学びの主体となる「探究的な学習過程」は、国語科の各領域等の単元の学習過程と親和性が高く、国語科はこの視点からの授業改善に取り組みやすい教科と考えることもできます。



各過程における「授業改善の視点」と「工夫例」

①課題の設定



教師が課題を与えるのではなく、児童生徒自身が課題を見つけ出すことができるようにしたい

工夫例

興味関心や、本時の学びの必要感を喚起させましょう



授業の導入において、教師が一方向的に課題を示すのではなく、例えば、「エラーモデルから課題を見付ける」、「例題を解いてみる」、「単元のゴールを確認する」などの活動を通して、児童生徒の興味関心を引き出したり、本時の学習の必要感を高めたりしてから、生まれた課題を確認することが大切です。

日々の授業において、こうした経験を積み重ねることによって、身近な生活の中から自ら課題を発見する力を育むことが大切です。



- モデルや例題などを大型提示装置で示す。
- 単元の学習計画や、前時までの学びの足跡をクラウドに保存し、1人1台端末で確認する。



単元や本時の見通しをもって、主体的に課題解決に取り組むことができるようにしたい

工夫例

ゴールの姿を明確にしましょう



課題が明確になった後には、学習活動を通して課題を解決した（単元・本時の目標を達成した）具体的な姿を児童生徒がイメージできるようにすることが大切です。

その上で、ゴールの姿に至るための具体的な手立てや、活動の内容、方法、時間などについて、（発達段階に応じて自分で選択・決定できる余地を可能な限り多く保障しながら）しっかりと見通しを立てることにより、「できそうだ」、「やってみたい」という気持ちを十分に高めてから課題解決に取り組むことが大切です。



- ゴールが見える単元の学習計画などを大型提示装置で示したり、1人1台端末で確認したりする。

②情報収集



課題解決の手立てを自分で見付けることができるようにしたい

工夫例

まずは、教科書をしっかりと活用できるようにしましょう



教科書は、単元の課題解決に向けた手がかりが最も分かりやすくまとめられている資料です。

小学校は「たいせつ」、中学校は「学びのカギ」などに、当該単元の課題解決のポイントが分かりやすく整理されているので、自力で見付ける→生かす、の流れとなる学習活動を設定することが大切です。

また、教科書に示されている言語活動の例を見て、そのよさに気付かせたり、自分の現状と比較して、できるようになりたい課題を考えたりする活動も有効です。

ICT

- 「話すこと・聞くこと」などにおいて、言語活動の手本を教科書の二次元コードから動画で視聴する。
- 「たいせつ」「学びのカギ」や、教科書の言語活動の例を大型提示装置で示す。



「話す(話し合う)こと」や「書くこと」において、目的や意図に応じた情報を主体的に収集することができるようにしたい

工夫例

情報収集の方法を児童生徒が選択できるようにしましょう



情報収集の方法としては、教科書、書籍、インタビュー、アンケート、インターネットなどの方法が考えられます。

可能な限り複数の方法を選択できるよう準備することにより、様々な方法を試しながら、選択することができるようになりますし、その後の生活や学習の場面においても、目的や意図に応じた情報収集の方法を考える力を育むことができます。

個人で収集する活動→必要に応じて対話する活動→方法を選択して改めて個人で収集する活動、の流れで活動することによって、自己の学びを調整する力を育むことにもつながります。

ICT

- 収集した情報をクラウドに保存し、必要なときに随時活用できるようにする。

③整理分析



「話す(話し合う)こと」や「書くこと」において、各自が収集した情報を効果的に整理することができるようにしたい

工夫例

言語活動の目的に応じた方法を提示しましょう



例えば、スピーチや文章の構成について考える学習であれば、内容のまとめりごとに操作して順番を入れ替えることができるよう、付箋やカードにまとめる、複数のデータ(根拠)をもとにして自分の考えを伝える学習であれば、図やグラフなどを貼り付けることができるよう、端末のホワイトボードアプリを活用するなど、目的の達成に向けて効果的な方法を提示しましょう。このような経験を通して、自ら適した方法を選択する力を育むことが大切です。

また、メモ、箇条書き、要約、グラフの読み方などの基礎的な技能や、指導事項〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項に示される力などを確実に定着させることにより、こうした活動が一層充実します。



○ フィグジャムなどのホワイトボードアプリで情報を整理する。



文学的な文章を「読むこと」において、登場人物の心情などについて、自分なりの解釈ができるようにしたい

工夫例

人物像は「想像」するものであり、表現の効果などを「考え」て解釈します



登場人物の心情などについて、特定の解釈をただひとつの正解として示すのではなく、児童生徒一人一人が、文章の構成や展開、表現の仕方などに着目して考え、それらを根拠としながら、自分なりに想像できるようにすることが大切です。その上で、多様な根拠の考え方に触れることで、読み方が広がったり深まったりすることを目指しましょう。

「読むこと」の学習においては、児童生徒が、読書の価値や魅力に気づき、自ら読書に親しむ習慣につながるものが何より大切です。



○ クラスルームなどで、それぞれの解釈を共有・交流することを通して考えを広げ、自分の解釈を深める。

④まとめ・表現



「読むこと」において、すべての児童生徒が考えを形成することができるようにしたい

工夫例

「個別」と「協働」の学びを一体的に充実させましょう



まずは、児童生徒が自分なりに精査解釈した内容をもとにした考えをアウトプットすることが重要です。

その後、必要に応じて対話などを通して、考えを広げたり深めたりできる場を保障するとともに、協働的な学びの成果を再度個の学びに戻して、最終的な自分の考えを記述できるようにすることが大切です。その際、共有の在り方を工夫したり、個別の支援を行ったりして、すべての児童生徒が終末場面で自分なりの考えを記述できるように配慮しましょう。

また、学級全体として、ひとつの考えを正解として収束させる必要はありません。



- オクリンクプラスのみんなのボード、クラスルームなどで、他者参照しながら自分の考えを広げる。



「書くこと」において、苦手意識や嫌悪感をもたずに、意図や目的に応じた一定程度の文字数の文章を記述できるようにしたい

工夫例

「何を書いていいかわからない」「面倒くさい」を払拭しましょう



「何でもいいから書きましょう」では、逆に何を書いていいかわからずに書くことの苦手意識を高めてしまう場合があります。「何のために書くのか」「どのように書くのか」を明確にしたり、書くために必要な材料を収集・整理したりすることが大切です。また、他者参照できるようにすることで、何を、どのように書くかでつまづいている児童生徒の手助けになります。

文字数が多い場合は、記述することや、書き直しをすることに抵抗感をもつ児童生徒が一定数見られます。手書きではなく、1人1台端末を活用することにより負担感を軽減させることが可能ですので、書く方法を児童生徒が選択できるようにすることも大切です。



- ドキュメント、スライドなどを活用して、記述を行う。
- オクリンクプラスのみんなのボード、クラスルームなどで、他者参照しながら記述を行う。

⑤振り返り



「書くこと」において、発達段階に応じた観点で主体的に推敲することができるようにしたい

工夫例

同一の観点で推敲することを習慣化しましょう



自分が書いた文章を見直すことは、国語科の特定の場面だけで行われるのではなく、日常の様々な場面で発揮されるべき力です。

児童生徒が、発達段階に応じた物差しを持ち、いつでも同じ視点で推敲できるようにすることが大切です。

授業力向上プロジェクトチームでは、それぞれの発達段階における指導事項を目安にしながら、本市の児童生徒の課題も踏まえた推敲の視点などを整理した「言葉の力を他教科・他領域でも生かす・育む名人シート」を作成していますので、活用してください。

ICT

- 「児童生徒用名人シート」をクラウドに保存し、必要なときに随時活用できるようにする。



児童用



生徒用



言語活動を通して成長した自分を実感することができるようにしたい

工夫例

学習前後の自分の状況を客観的に自己評価させましょう



ノートや学習プリント、動画も含めた1人1台端末の活用などにより、学習状況を記録化し、自分の言語活動がどのように変容したかを客観的に確認できるようにすることが大切です。

振り返り場面では、振り返りの視点が重要になります。例えば、「対話を通してどのように考えを広げることができたか」など「学び方」に関する振り返りも大切ですが、「自分の考えを伝えるためにどのような工夫をして書くことができましたか」など、国語科の学習としての目標・評価規準と正対した観点も必要になることに留意しましょう。「できた」「できるようになった」の実感が大切です。

ICT

- 単元の各時間の振り返りを一覧で確認できるように記録する。
- スプレッドシートを活用し、友達の記述をリアルタイムで参考にできるようにする。

言葉の力を他教科・他領域でも生かす・育むポイント

人前で話すことや話し合うこと、目的に応じて調べて書くことや書いた文章を見直すこと、これらの活動は、国語科の指導事項であります。多くの教科や領域においても行われる活動でもあります。

他教科等で活用する際は、発達段階に応じて、当該学年の指導事項を踏まえることにより、当該教科等の学びの成果を一層高めることとなりますし、言葉の力も、繰り返し活用されることにより磨かれ、一層確かなものになります。

9年間の系統性を見取ることができるよう一覧にした教師用資料「名人ポイント」と、各学級に掲示したり、1人1台端末に保存したりするなどして、日常的に活用できる、児童生徒用の「名人シート」を作成しました。

「名人ポイント」「名人シート」のいずれも、ホームページからダウンロードすることができますので、市内の各教室で積極的に活用されることを期待しています。

教師用資料 名人ポイント

- 「話すとき」
- 「話し合い」
- 「レポート（情報収集・整理）」
- 「レポート（記述）」
- 「推敲」

の、5つの活動について、国語科の指導事項を基にして、当該学年で活用する際のポイントについて、発達段階の系統性を横並びで比較できるように一覧表にまとめました。また、小学校編と中学校編を作成しており、それぞれ、小・中学校のつながりが見えるようになっていきます。

言葉の力を他教科・他領域でも生かす・育む-名人ポイント- 小学校 話すこと・聞くこと編

	小学校第1学年及び第2学年	小学校第3学年及び第4学年	小学校第5学年及び第6学年	中学校第1学年
話すときのポイント	<p>【話すこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように話す。</p> <p>【話し合い】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように話し合う。</p> <p>【レポート（情報収集・整理）】 自分の調べた情報を、相手に伝えることができるようにまとめる。</p> <p>【レポート（記述）】 自分の調べた情報を、相手に伝えることができるようにまとめる。</p> <p>【推敲】 自分の書いた文章を、相手に伝えることができるように見直す。</p>			
話し合うポイント	<p>【話し合うこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように話し合う。</p> <p>【話し合うこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように話し合う。</p> <p>【話し合うこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように話し合う。</p> <p>【話し合うこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように話し合う。</p>			

言葉の力を他教科・他領域でも生かす・育む-名人ポイント- 小学校 書くこと編

	小学校第1学年及び第2学年	小学校第3学年及び第4学年	小学校第5学年及び第6学年	中学校第1学年
書くこと	<p>【書くこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように書く。</p> <p>【書くこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように書く。</p> <p>【書くこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように書く。</p> <p>【書くこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように書く。</p>			
書くこと	<p>【書くこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように書く。</p> <p>【書くこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように書く。</p> <p>【書くこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように書く。</p> <p>【書くこと】 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるように書く。</p>			

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年

話すときのポイント

- ① 話すことをきめるとき
 - ・学校やお家、ちいさなできごとや、じぶんがけいけんしたことを思い出そう。
 - ・1番(ばん)話したいことをえらぼう。
- ② 話すメモを作るとき
 - ・話すじゅんばんを考えよう。
 - ・はじめ-中-おわりのまとまりをつくろう。
- ③ 話すときに気をつけること
 - ・あいてに聞こえる声の大きさ ・聞きやすいはやさ
 - ・だいじなことは大きな声でゆっくり

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

名人シート 中学校1学年

話すときのポイント

- ① 話す内容を考えるとき
 - ・話題について特に伝えたいことは何かをはっきりさせよう。
 - ・必要な説明や具体例は何かを短く箇条書きで書き出してみよう。
- ② 話すメモを作るとき
 - ・①で集めた材料を並べる順番を考えてナンバリングなどをしながら組み立てよう。(簡単な構成メモをつくといいよ。)
 - ・接続語や文末表現(～だ、である、です、ます)、時間の流れなどもよく考えよう。
- ③ 話すとき
 - ・聞き手のうなずきや表情などの反応を見ながら言葉の選択や話すスピード、音量、間の取り方などに気を付けて話しよう。
 - ・キャッチコピー、表やグラフ、ランキング形式など必要に応じて伝え方を工夫してみよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年

話すときのポイント

- ① 話す内容を考えるとき
 - ・目的をいしきして、日常生活から話題を決めよう。
 - ・本や文章を読んだり、人に聞いたりして、材料を集めよう。
- ② 話すメモを作るとき
 - ・あい手に伝わるように、理由やれいをあげよう。
 - ・話の中心が伝わるように順番を考えよう。
- ③ 話すときに気をつけること
 - ・時と場に合った声の出し方や言葉づかい、しせん
 - ・言葉のよくようや強弱、間の取り方

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

名人シート 中学校2学年

話すときのポイント

- ① 話す内容を考えるとき
 - ・話題について、自分の伝えたいことと合わせて、考えや立場(賛成・反対など)を書き出してみよう。
 - ・考えの根拠・理由は何かを考えてみるといいよ。
- ② 話すメモを作るとき
 - ・筋道の通った話になるようにこのような順序で話す事柄を並べたら聞き手に伝わるかなどを考えて、話を構成しよう。
 - 例 話題・考えや立場(簡単に)→根拠・具体例・体験→意見(まとめ)
- ③ 話すとき
 - ・本、図表、グラフ、写真などを含む資料などを活用しよう。
 - ・パソコンなどのプレゼンテーションソフトやフリップなどを使って話すと、より聞き手に伝わりやすかったり、興味を引きつけたりすることができるよ。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年

話すときのポイント

- ① 話す内容を考えるとき
 - ・話す目的や意図にあった材料を日常生活から集めよう。
 - ・材料を内容ごとにまとめたり結びつけたりして整理しよう。
- ② 話すメモを作るとき
 - ・内容が明確になるよう話す順序を考えよう。
 - ・事実と感想、意見とを区別しよう。(接続語や文末表現に注意)
- ③ 話すときに気をつけること
 - ・目的や相手、状況などにあった資料の提示やその順番
 - ・視線や指示の仕方

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

名人シート 中学校3学年

話すときのポイント

- ① 話す内容を考えるとき
 - ・色々な考えをもつ相手に理解・納得してもらえるように、意見の根拠・理由をはっきりさせよう。
- ② 話すメモを作るとき(組み立ての工夫の仕方の例)
 - ・伝えたい内容に関連する体験談を交えてみよう。
 - ・具体例を根拠としてみよう。
 - ・説明の順序を工夫してみよう。
 - ・聞き手を納得させる語句を選んでみよう。
- ③ 話すとき
 - ・聞き手の人数や立場、話す会場の広さなどにより次の工夫をしてみよう。
例 「内容を補足する」「問いかけや質問を促す」など

「話者提示」では、問いかけや呼びかけを…
「内容の説明」では、丁寧な言葉の説明を…体験(事実)と考え・思いを区別して…
「まとめ」では、呼びかけや印象に残る表現で…

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年

話し合いのポイント

- ともだちの話をよく聞こう。
- 聞きたいことがあったら、しつもんをしよう。
- 話を聞いて思ったこと(かんそう)をつたえよう。
- つぎのことばをつかおう。

- ・「うんうん」、「なるほど」、「へー」
- ・「もう一回、言ってくれる？」
- ・「〇〇っていうこと？」

視覚力向上図画プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校1学年

話し合いのポイント

- ① **話し合いを始めるとき**
 - ・目的や話題、話し合いの進め方について確認しよう。
 - ・話し合いを始める前にテーマに関する材料を集めた意見を述べる前に整理しておこう。
- ② **話し合うとき**
 - ・意見を述べるときは自分の意見や立場、その根拠となる事実について簡潔に発表しよう。
 - ・仲間の話を聞かるときは、要点や疑問点についてメモをとろう。
 - ・メモした疑問点を質問したり、お互いの共通点や相違点について意見を出し合おう。
 - ※質問するときには誰のどの発言についてかをはっきり伝えよう。
 - ※話し合いに行きづまったり、対立したりしたら、目的に戻ろう。
- ③ **話し合いをまとめるとき**
 - ・納得できる意見を選んだり、お互いの考えを結びつけたりして、話し合いをまとめていこう。

視覚力向上図画プロジェクトチーム作成

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年

話し合いのポイント

- ① 始める前に、話し合いの目的や内容、目指すゴールを確認しよう。
- ② 役割を決めて話し合おう。

- ・司会者・参加者に発言をうながしたり、発言の似ている点やちがう点を確認したりして、話し合いがまとまるように進行する
 - ・参加者・話し合いの流れをふまえて、理由をつけて意見を言う
- ③ 友だちの意見と自分の意見の似ているところやちがうところを見つけ、自分の考えをまとめよう。

視覚力向上図画プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校2学年

話し合いのポイント

- ① **話し合いを始めるとき**
 - ・目的や話題、話し合いの進め方、テーマに対する互いの立場などを確認しよう。
 - ※本や新聞、インターネットなどから根拠となる情報を幅広く集めておくことで充実した話し合いになるよ。
- ② **話し合うとき**
 - ・聞き手から反論されたりや意見を求められたりすることを予想して意見を述べ合おう。
 - ※他の人と自分の意見との共通点、相違点などをメモしながら聞くといいですよ。(司会者は各立場の意見の共通点や相違点をメモしておこう。)
- ③ **話し合いをまとめるとき**
 - ・それぞれの立場や仲間がなぜそのような意見を述べているのかを理解し、共通点や相違点、話し合いの中での新たな提案をもとにしながら結論に向かって話し合いをまとめていこう。

視覚力向上図画プロジェクトチーム作成

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年

話し合いのポイント

- ① 始める前に、話し合いの内容、順序、時間配分、目的やゴールを明確にしよう。
- ② 意見を述べるときは、自分の立場(賛成、反対など話題に対する考え)と、その理由を明確にしよう。
- ③ 話し合った後は、異なる意見も生かすようにしながら、自分の考えをまとめよう。

視覚力向上図画プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校3学年

話し合いのポイント

- ① **話し合いを始めるとき**
 - ・司会者、提案者、参加者などそれぞれの立場で目的に沿った話し合いの仕方や流れを確認しよう。
- ② **話し合うとき**
 - ・進み具合や流れを振り返りながら結論に向かって話し合いを進めていこう。
 - ・話し合うべきポイントが複数あるときは、下記のように話し合いを進めよう。
 - ※全体に関わる大きな論点 → 具体的な論点へ
 - ・各自の意見を結び付けたり、必要な意見を取捨選択したりして、よりよい結論を目指していこう。
- ③ **話し合いをまとめるとき**
 - ・異なった立場や考え方がある場合にも、お互いの違いを認めつつ、共通点や新たな考え方を導き出していく中で考えを深めていこう。

視覚力向上図画プロジェクトチーム作成

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年用

ざいりょうあつめ・かくことをきめる

まとめるときのポイント

①書(か)くざいりょうをあつめるとき
・つぎのことから、ざいりょうをあつめよう。

- ・したこと ・見たこと(大きさ、色、形)
- ・かんじたこと(気持ち) ・気づいたこと
- ・ぎもんに思ったこと など

②書(か)くことをきめるとき
・あつめたざいりょうから、書(か)きたいことをきめよう。
・じゅんじょにそって書(か)くじゅんばんをきめよう。

授業力向上国語プロジェクトチーム

名人シート 中学校1学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①レポートの情報を集める前に
・何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかなどをはっきりさせよう。

②材料を集めるとき
・目的に応じて材料や情報を集めるときは、下記の手段を参考に必要な材料や情報を収集しよう。

【情報を収集する手段の例】
・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
・音声や映像・アンケート など

※集めた資料は出版社・出版年・URL・見た年月日・アンケート対象者の所属・回答数など記録しておこう。

③集めた材料を整理するとき
・収集した材料は、比較しながら取捨選択したり、種類ごとに分けたり(複数の語句を線でつないだり、線でくったりしながら)してみよう。
・原因と結果、意見と根拠などの関係を見つけ、レポートをまとめるために整理しよう。

授業力向上国語プロジェクトチーム

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①書くために必要な情報を集めるとき
・相手や目的を明確にしよう。

- ・誰に対して書くのか ・何のために書くのか
- ・読み手はどのようなことを知りたいのか など

②集めた材料を選ぶとき
・情報を整理して、目的に応じた情報を選ぼう。

- ・共通点や相違点に着目して分ける
- ・共通する性質に基づいて分類する

授業力向上国語プロジェクトチーム

名人シート 中学校2学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①レポートの情報を集める前に
・何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかなどをはっきりさせよう。

②材料を集めるとき
・根拠となる情報や材料は下記の手段を参考に様々な方法を活用して幅広く収集しよう。

【情報を収集する手段の例】
・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
・音声や映像・インタビュー・アンケート など

※集めた資料は出版社・出版年・URL・見た年月日・アンケート対象者の所属・回答数など記録しておこう。

③集めた材料を整理するとき
・収集した材料や情報は、目的に応じて比較しながら取捨選択したり、種類ごとに分けたりしよう。(複数の語句を線でつないだり、線でくったりするといふ。)
・原因と結果、意見と根拠などの関係付けをしながら整理し、様々な角度から検討して伝えたいことを明確にしよう。

授業力向上国語プロジェクトチーム

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①書くために必要な情報を集めるとき
・目的や意図を明確にしよう。

- ・誰に対して書くのか ・何のために書くのか
- ・読み手はどのようなことを知りたいのか など

②集めた材料を選ぶとき
・情報を整理して、目的に応じた情報を選ぼう。

- ・優先順位を考えて並べる
- ・賛成、反対の両方の立場の情報を分析する
- ・情報を互いに結び付けて関係を明確にする

【情報を収集する対象・手段の例】
・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
・音声や映像・インタビュー・アンケート など

授業力向上国語プロジェクトチーム

名人シート 中学校3学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①レポートの情報を集める前に
・何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかなどをはっきりさせよう。

②材料を集めるとき
・根拠となる情報や材料は下記の手段を参考に様々な方法を活用して集めよう
・材料を集めるときは、より客観性や信頼性の高い適切な情報を収集しよう。

【情報を収集する手段の例】
・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
・音声や映像・インタビュー・アンケート など

※集めた資料は出版社・出版年・URL・見た年月日・アンケート対象者の所属・回答数など記録しておこう。

③集めた材料を整理するとき
・収集した情報は、取捨選択し、種類ごとに分けてみよう。(複数の語句を線でつないだり、線でくったりするといふ。)
・原因と結果、意見と根拠などの関係付けをしよう。
・情報がたりななければ、根拠となる情報を、再度収集することも大切だよ。

授業力向上国語プロジェクトチーム

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年

書(か)くとき

まとめるときのポイント

- かん字やひらがな、カタカナを正しく書(か)こう。
- 文のおわりには 。(くてん)をつけよう。
- 文をわかりやすくするために、(とうてん)をつけよう。
- 会話文(かいわぶん)には、「」(かぎ)をつけよう。
- はじめー中ーおわり のくみ立てをかんがえて書(か)こう。

授業力向上国語プロジェクトチーム

名人シート 中学校1学年

記述編

レポート作成のポイント

- レポート作成をするときは、何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかを確認し、取捨選択した材料や情報を自分の考えが伝わるように構成を工夫して書こう。
- 自分の伝えたいことが伝わるように、複数の具体例(事実)を(項目に分けて)あげながら、根拠を明確にして書き表そう。

【例】

1. テーマ・課題について	2. 調べた方法
3. 実験・調査の結果・事実(Ⅰ Ⅱ Ⅲ)	
4. まとめ(考え・意見)	
5. 参考資料 など	

- 自分の考えや意見を、その根拠となる「確かな事実となる根拠」に基づいて書こう。
(事実となる根拠→意見)

授業力向上国語プロジェクトチーム

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年

記述編

レポート作成のポイント

- 文字の表記などに気をつけて書こう。
・漢字や仮名 ・送り仮名のつけ方 ・改行の仕方
・(とうてん)や。(くてん)の打ち方
- 文章を正しく、分かりやすく書こう。
・主語と述語の関係 ・「こ・そ・あ・ど言葉」
- 自分の考えが明確になるように書き表し方をくふうしよう。
・理由を書こう
「なぜかという～」「その理由は～」「～ためである。」
・例をあげて説明しよう。
「例えば～」「事例をあげると～」「～などがそれに当たる」

授業力向上国語プロジェクトチーム

名人シート 中学校2学年

記述編

レポート作成のポイント

- レポート作成をするときは何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかを確認し、取捨選択した材料や情報を自分の考えが伝わるように構成を工夫して書こう。
- 構成を工夫するときは、説得力が増すように考えや意見の根拠となること(実験の結果・事実)を、ナンバリングなどして項目に分けて具体的に書き表そう。

【例】

1. テーマ・課題について	2. 調べた方法
3. 実験・調査の結果・事実(Ⅰ Ⅱ Ⅲ)	
4. 考察(考え・意見)	5. 参考資料 など

- 根拠を書くときには、下記のことを考えながら書くといいですよ
Ⅰ 確かな「事実や事柄」に基づいたもの(データ)になっているかな？
Ⅱ 「事実や事柄」と自分の考えがしっかりつながっているかな？ など

授業力向上国語プロジェクトチーム

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年

記述編

レポート作成のポイント

- レポート作成の目的や意図に応じて、詳しく書く内容と簡単に書く内容を判断しよう。
- 自分の「感想や意見」と、その裏付けとなる「客観的な事実」を区別して書こう。
- 自分の伝えたいことが伝わるように、「引用」したり、「図形やグラフ」等を用いたりして、書き表し方を工夫しよう。
【文章や図形、グラフ等を引用した場合】
引用した資料名を書くことが必要です。本から引用した場合は、著者名・書名・出版社名・発行年を書きます。
- 伝えたいことが伝わるように、全体の構成や割り付けを工夫しよう。

授業力向上国語プロジェクトチーム

名人シート 中学校3学年

記述編

レポート作成のポイント

- レポート作成の目的に応じて、文体や簡潔な述べ方と詳しい述べ方、事実と意見の関係などに気付けて構成を工夫しよう。
- 目的に応じて、内容のまとまりごとに見出しをつけたり、番号をふったり、注釈をつけるなど表現の仕方を工夫しましょう。

【例】

1. テーマ・課題について	2. 調べた方法
3. 実験・調査の結果・事実(Ⅰ Ⅱ Ⅲ)	
4. 考察(考え・意見)	5. 参考資料 など

- 自分の考えの根拠としてふさわしい資料を引用したり、自分の考えとの関係について補足したりすることが大切です。引用の際には下記のように出典の明示、図表などを引用する際には「図1は」など本文との関連を示しましょう。
【文章や図形、グラフ等を引用した場合】
引用した資料名を書くことが必要です。本から引用した場合は、著者名・書名・出版社名・発行年を書きます。

授業力向上国語プロジェクトチーム

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年

推敲のチェックポイント

○ 一文一文、ていねいに読(よ)みかえしましょう。

- ・書(か)いてある字は正しいですか。
 ・かん字、ひらがな、カタカナ ・小さい「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」
- ・ぬけている字はありませんか。
- ・くてん(。), どうてん(、), かぎ(「)のつかいかたは正しいですか。
- ・「は」「を」「へ」のつかいかたは正しいですか。

じぶんが書(か)いた文しょうを声に出して読(よ)んでみると、まちがいに気づくことがあります。

授業力向上支援プロジェクトチーム

名人シート 中学校1学年

推敲のチェックポイント

○ 文章全体を見て、読み手の立場に立って、伝えたいことが伝わるかを確認めよう。

- ・漢字・仮名遣い・送り仮名が正しく使われているかな。
- ・文体が常体が敬体かで統一されているかな。
- ・句読点などの符号の使い方は適切かな。
- ・語句の使い方、係り方や語順は、分かりやすいものになっているかな。
- ・段落の順序やつながりが適切であるかな。
- ・主語と述語がわねじれていないかな。
- ・一文が長すぎ、あるいは、短すぎないかな。
- ・より分かりやすい言葉に置き換えることはできないかな。
- ・比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできないかな。

授業力向上支援プロジェクトチーム

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年

推敲のチェックポイント

○ よりよい表現になるように、書いた文章を読み返しましょう。

- ・学習した漢字が正しく使われていますか。
- ・主語と述語がわねじれていませんか。
- ・「は」「を」「へ」の使い方は正しいですか。
- ・文の終わり方はそろっていますか。
 ・じょう体・「ーだ。」「ーである。」
 ・けい体・「ーです。」「ーます。」
- ・相手や目的に合った表現になっていますか。
 ・だれに向けて書いているか。
 ・何のために書いた文章なのか。
- ・内容のまとまりごとに、段落を分けて書いていますか。

授業力向上支援プロジェクトチーム

名人シート 中学校2学年

推敲のチェックポイント

○ 文章全体を見て、読み手の立場に立って、伝えようとしていることが伝わるかを確認めよう。

- ・説明や具体例、描写は、伝えたいことを伝えるために適切かな。
- ・漢字・仮名遣い・送り仮名が正しく使われているかな。
- ・文体が常体が敬体かで統一されているかな。
- ・句読点などの符号の使い方は適切かな。
- ・語句の使い方、係り方や語順は、分かりやすいものになっているかな。
- ・段落の順序やつながりが適切であるかな。
- ・主語と述語がわねじれていないかな。
- ・一文が長すぎ、あるいは、短すぎないかな。
- ・より分かりやすい言葉に置き換えることはできないかな。
- ・比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできないかな。

授業力向上支援プロジェクトチーム

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年

推敲のチェックポイント

○ 文章全体の構成や書き表し方に着目して、書いた文章を見直しましょう。

- ・学習した漢字が正しく使われていますか。
- ・主語と述語がわねじれていませんか。
- ・語句の係り方や語順は、分かりやすいものになっていますか。
- ・一文が長すぎませんか。あるいは、短すぎませんか。
- ・より分かりやすい言葉に置き換えることはできませんか。
- ・比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできませんか。
- ・文章全体を見て、内容や表現はそろっていますか。
- ・書く目的に照らして、適切な構成や内容ですか。
- ・事実と感想、意見とが区別されていますか。
- ・引用の仕方、図表やグラフ等の用い方は適切ですか。

授業力向上支援プロジェクトチーム

名人シート 中学校3学年

推敲のチェックポイント

○ 文章全体を見て、書く目的や意図に応じた表現になっているかを確認めよう。

- ・説明や具体例、描写は、伝えたいことを伝えるために適切かな。
- ・漢字・仮名遣い・送り仮名が正しく使われているかな。
- ・文体が常体が敬体かで統一されているかな。
- ・句読点などの符号の使い方は適切かな。
- ・語句の使い方、係り方や語順は、分かりやすいものになっているかな。
- ・段落の順序やつながりが適切であるかな。
- ・主語と述語がわねじれていないかな。
- ・一文が長すぎ、あるいは、短すぎないかな。
- ・より分かりやすい言葉に置き換えることはできないかな。
- ・比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできないかな。

授業力向上支援プロジェクトチーム